

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## ひぐみっ子地域交流会

副校長 田邊 訓志



12月16日(土)に土曜参観を行いました。校舎内では各学級の授業参観、校庭と校舎の一階部分では「ひぐみっ子地域交流会」を行いました。

「ひぐみっ子地域交流会」では、「ひぐみっ子が、東汲沢小学校を支えていただいている地域の方と交流する活動をとおして、より地域のことや地域の人を知ったり、愛着をもったりできるようにすること」をねらいとし、まちの皆様にはスポーツや昔遊び、写真やマジックなどの体験・紹介などとおしてひぐみっ子にかかわっていただきました。

計画や渉外にあたっては、主に東汲沢小学校地域学校協働本部「ひぐみ共育くらぶ」、および東汲沢小学校PTAの皆様、当日の運営にあたっては、さらに多くの地域の皆様にお力をいただきました。1階の図工室前「つながろうか」には、参加したひぐみっ子の感想が掲示されています。その一部を紹介します。

- モルックは、最初ルールがわからなかったけれど、説明がわかりやすかったので楽しくできました。
- モルックでは、私が外してしまったとき、「いきおいはいいよ。あとはまっすぐとばせるといいね。」とアドバイスをくれて、うれしかったです。
- グラウンドゴルフでは、地域の方がやりかたや持ち方を教えてくださってうまくでき、うれしいきもちと楽しいきもちがあわさって楽しくかったです。
- 羽根つきは初体験だったのですごく楽しくかったです。おてだまも、できたときにほめてくださりありがとうございました。
- 輪投げが印象に残りました。理由は学年に合わせて投げ位置の線を3本書いていたからです。
- けん玉やこま回して、ていねいに教えてくださってうれしかったです。だるま落としでは、最後までできたとき「すごく上手だね」とほめてくださってうれしかったです。
- マジックや皿回しを見ていてものすごく楽しかったです。皿回しのやり方のレシピまでいただきありがとうございました。
- マジックを見ていると、わくわくして楽しい気持ちになっておもしろかったです。一年生も楽しんでいたので、マジックは人を楽しい気持ちにするんだなと思いました。
- マジックでは1年生がタネを見破っていたので、思わず笑っちゃいました。また学校に来てくださいね。
- 写真はしっかり動物をとらえていて、さすがプロだな～と思いました。
- (野生動物の)かわいい写真をいただいて、とても大切にしています。
- 会いたかったウナシーに会えて、うれしかったです。ウナシーのはんのうがおもしろくて、もっと好きになりました。
- 写真でまちの歴史を教えてもらってよかったです。
- この交流会で、地域の方をもっと知ることができ、楽しい交流会になりました。本当にありがとうございました。

まちのみなさまにお力をいただきまして、またひとつ、ひぐみっ子が学校教育目標の実現に向けた学習をすることができました。さらに、多くの保護者の皆様にも、その様子をご覧いただくことができました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。そして、これからも変わらぬお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ひぐみにかかわるすべての皆様、いつもありがとうございます。どうぞよいお年をお迎えください。

## 国際教室

国際教室担当 松井みぎわ

今年度、国際教室を担当しております、松井みぎわと申します。

国際教室の役割は、外国にかかわりのある子どもたちが安心して学校で過ごすことができるように、子ども一人ひとりに応じて日本語初期指導や教科指導・サポートをすることです。また、保護者の方々にも主に個人面談・家庭訪問などでの通訳を行う学校通訳ボランティアをおつなぎしたりしています。

私は、主に学級の授業に入って外国にかかわりのある子どもの学びの様子をサポートしたり、国際教室で取り出しの授業を担当したりしています。とても熱心に学習活動に取り組んでいる子どもたちの姿を見て、感心している毎日です。外国にかかわりのある子どもたちは、日常会話等の生活言語は流暢に話せることが多いのですが、教科特有の言語につまづきや難しさを抱える場合があります。そのため、国際教室では、教科で使われている言語の習得に重点を置く授業を心掛けています。算数の授業では、文章の読み取りをしなければ立式ができません。たし算やひき算の学習では、「あわせていくつ」「のこりはいくつ」の他にも「いくつといくつ」「あといくつ」「ちがいはいくつ」のように違う口調で出題されている問題にも対応しなければなりません。言葉の意味を子どもと繰り返し確認をしていくことで、スムーズに立式できるようになってきました。たし算やひき算等の筆算の書き方が国によって違うこと等を逆に子どもから教えてもらう時もあります。外国にかかわる子どもたちが、外国の文化を知る懸け橋になっていることを実感した出来事です。外国にかかわりのある子どもたちにとって、学校での活動がより良いものであるように、これからもサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。